
IS ～インフィニットストラトス～赤髪の少年と紅き I S ～

五月雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 〜インフィニットストラトス〜 赤髪の少年と紅きIS

【Nコード】

N1449Z

【作者名】

五月雨

【あらすじ】

女しか扱えない世界最強の兵器、インフィニット・ストラトス。通称『IS』。それが開発されたせいで、今の世界は女尊男卑が常識となっていた。そんな中、驚愕の出来事が起きてしまった。一人の少年……織斑一夏がISを起動させた。男なのにISを動かすという現象は人が、国が、世界が驚かされ、衝撃を走らされた。だが、織斑一夏がISを起動させる同時刻、とある少年もISを起動させていた。これはその少年達の物語……

プロローグ（前書き）

はじめるよ

ブローグ

皆は偶然って言葉って信じますか？ 僕は偶然という言葉信じてもないし、むしろ大嫌いだ。とは言っても、偶然という言葉が嫌いになったのは、ほんの二ヶ月前の出来事のせいだ。

高校受験の前日に、僕は気分転換に母が勤めているIS開発所に足を運んだ。小さい頃からずっと友達がいらない僕にとってはここが唯一の好きな場所だ。母はその所長であって、本来関係者以外立ち入り禁止であるが、基本的に母は家族に対しては甘いし、僕に対しては溺愛な性格をしているためいつでも入れた。

いつものようにISが開発されている部屋をガラス越しから見ていると、トイレに行きたくなってトイレに向かった。

だが、今思えばその行動が後悔したいほど悪かった。

トイレで用を足してトイレから出たら、偶然半開きの扉を発見した。なんとなく気になってしまった僕はその部屋を覗いた。薄暗い部屋だったが、周りのものは見えていてその中に僕が目留めた物

……全身紅い色に染まった装甲をしたISがあった。

何故ここにISが置いているという疑問を考えるより先に、触つてみたいってという考えが浮んでいた。ISは何度も見た事があるが、別の部屋で嚴重に保管されていてISに触る機会は全くない。

流星に母さんもそこまではさせなかったらしい。

僕は周囲に人がいないかと確認してその部屋に入った。そのISにゆっくりと近づいていき、恐る恐る手を伸ばして真っ平らですっかり冷え込んでいるボディに触れた。その刹那、急にそのISは赤く輝き始めたと同時に、僕の頭の中にISに関わる大量の情報が激流のごとくの流れてくる。やがて、ISから出ている光は無くなっていき、僕はその場で何が起こったかも分からずにただ茫然と立っていた。

その後日、その事は全国に広まっていき、家にはマスコミや各国のお偉いさんや研究員までもがやってきた。正直、鬱陶しいレベルとかそういう問題じゃない。家とかあまり出れずにいて、疲れとかストレスとかも溜まっていた。今でもストレス溜まっているけ

ど……。

で、現在僕がいるのはIS学園。ISと言うのは、正式名称「インフィニット・ストラトス」と呼ばれていて、世界最強の兵器であるが、女性にしか起動しない今でも謎の兵器だ。そのISを操縦する人達を育成する世界唯一の場所がこのIS学園だ。生徒はもちろん教師すら全員女のみ。言い換えれば完璧な女子校だ。

本来行くはずだった高校は無理やり変えられてしまい、僕は強制的にこの学校に入れさせられてしまった。偶然の出来事とはいえ、ここまでの大事になるとは今でも思いもしなかった。ただ触れただけでIS学園に強制的入学。さらに政府からの監視、そのデータの提供。実にこの上のない人生で一番最悪な話だ。母さんも不満な顔をしていたよ。

だが、そんな最悪の中、僕の他にもISを動かせる男がもう一人いた。僕はその人の方……隣へと視線を向ける。その男は若干顔色が悪くて、周りの視線を気にしているのかガチガチに緊張している様子でいた。名前は確か、織斑一夏って言っていたな。この人もある意味不幸だよ……。

「……はい、では次は赤城宗司君、自己紹介をお願いします」
あかしろ そつじ

教卓に立っている副担任、山田真耶先生が僕の名前を言って、僕は落ち着いた態度で椅子に立ち上がった。

「赤城 宗司です……。あの、特になにも言うことはないのですが、一年間よろしくお願いします」

簡潔に自己紹介し、一礼して着席する。周りからは、もっと話を聞きたいという総勢二十八人の女子の視線を感じるが、全部受け流した。嫌々な気持ちでここにいたり、しかも疲れでストレスが溜まっている状態でそんな事言うつもりは一切ない。

(……疲れた、寝よう)

僕は腕を組んでそのまま俯いて目を閉じる。余程疲れていたのか、僕の意識はいとも簡単に落ちた。

.....

.....

.....

パンツッ！ パンツッ！

「んっ………？」

突如、頭に強い衝撃が走って僕の意識が急に戻された。頭を起こすと、そこには黒スーツを着た美人な女性が出席簿を持って立っていた。ふと、頭を抱えている織斑一夏が視界にいた。なにかやったのかな？

「げえ、関羽！？」

顔を上げて女性を見て言った瞬間、女性が持っている出席簿の角で叩かれて再び悶える。あれは痛いだろうな……そして何故三国志？

「誰が三国志の英雄か、馬鹿者。それと……自己紹介の途中だからといって、居眠りは感心しないな」

「はぁ……すみません」

キツとした吊り目で僕を睨む黒スーツをした女性に、目を擦りながら謝る。 あれ？ この人…… 織斑一夏に似てないか？ ていうか、この人の顔、何処かで見たような……？

「諸君、私が織斑千冬だ。 君達新人を一年で使い物になる操縦者に育てるのが仕事だ。 私の言うことはよく聴き、よく理解しろ。 出来ない者にはできるまで指導してやる。 いいな？」

黒スーツの女性が無茶苦茶な発言をする中、ようやく思い出した。

ああ、この人があの有名なブリュンヒルデと呼ばれていた織斑千冬だったのか…… 引退してここ一年近く姿を見せないと思ったら、こんな所で教師をやっていたのか。 しかも織斑って、この二人は姉弟か？

「きゃあああああ！！千冬様、本物の千冬様よ！！」

「ずっとファンでした！！」

「私、お姉様に憧れてこの学園に来たんです！！北九州から！！」

「あの千冬様にご指導いただけるなんて嬉しいです！！」

「私、お姉様のためなら死ねます！！」

後ろからたくさんの黄色い声援が聞こえる。 頭に響くから正直うるさい。

「……毎年、よくもこれだけ馬鹿者が集まるものだ。感心させられる。それとも何か？私のクラスにだけ馬鹿者を集中させてるのか？」

ため息を漏らしながら言う織斑先生。 文句があるのなら、それを決めた人に言ってくれ。

こうして、織斑先生の登場によって興奮状態の女子達も次第に落ち着いていき、自己紹介を再開させた。これから三年間……か。長いようなようで長くないような学校生活が始まるのか……。

キャラ設定（前書き）

キャラ設定は大切！

キャラ設定

あかしろ そうじ
赤城宗司

身長 150cm

体重 42kg

家族構成 母、父、姉

詳細

本編の主人公。 研究所にある紅いISに触れてしまい、それが運命を大きく変えてしまった。

外見は長髪的一本結びをした赤髪で、背が小さく、顔は女顔なため女の子に間違えられるが、その反面、運動神経が非常に高く、力も強い。 母親や父親は仕事、姉は家事スキルゼロだから家事全般得意。

少し捻くれた性格をしているが、基本的には家族思いのある優しい少年。

キャラ設定（後書き）

何処がおかしな所があったら言ってください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1449z/>

IS ~ インフィニットストラトス ~ 赤髪の少年と紅き IS ~

2011年12月5日01時50分発行